



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年2月13日

上場会社名 ダイヤ通商株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 7462 URL http://www.daiya-tsusho.co.jp  
 代表者(役職名) 代表取締役社長(氏名) 北野 稔  
 問合せ先責任者(役職名) 常務取締役(氏名) 阿部 匡 (TEL) 03-5804-5081  
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	4,302	△8.9	△103	—	△108	—	△175	—
25年3月期第3四半期	4,723	10.2	42	△28.3	23	△55.0	10	△68.2
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
26年3月期第3四半期	△23.11		—					
25年3月期第3四半期	1.37		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	2,936	836	28.5
25年3月期	3,033	1,013	33.4

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 836百万円 25年3月期 1,013百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,779	△9.3	△116	—	△131	—	△195	—	△25.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

26年3月期3Q	8,222,000株	25年3月期	8,222,000株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

26年3月期3Q	593,390株	25年3月期	641,390株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期3Q	7,604,348株	25年3月期3Q	7,540,641株
----------	------------	----------	------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	5
4. 四半期財務諸表 .....	6
(1) 四半期貸借対照表 .....	6
(2) 四半期損益計算書 .....	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

第3四半期累計期間(平成25年4月1日～平成25年12月31日)の当社の主力事業が属する石油業界は、東日本大震災の影響による電力用C重油の伸びが鎮静化したことにより、国内の石油製品の需要は前年同期に比べ減少しました。

このような状況の中、当社の第3四半期累計期間の売上高は43億2百万円(前年同四半期比8.9%減)、営業損失は1億3百万円(前年同四半期、営業利益42百万円)、経常損失は1億8百万円(前年同四半期、経常利益23百万円)、四半期純損失は1億75百万円(前年同四半期、四半期純利益10百万円)となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

石油事業のサービスステーション部門におきましては、油外商品の強化というテーマをより具体的なメニューに落とし込み、確実な利益確保に努めております。「レンタカー」事業は、車両入れ換えと増車をを行い、売上も順調に推移しております。「車検」は、提案型の要素を強めたお見積りにより客単価の向上を図り、収益増に努めております。「洗車」は、コーティングを含めた専門店化をより強化し、収益アップを図っております。また、油外強化策の一つとして「タイヤ」に注力しており、商品の拡販と同時に作業収益増に努めております。原油価格は7月より上昇に転じ、それに伴い仕入価格が4週連続の値上りとなり、8月微減・9月下落・10月上昇・11月下落・12月上昇と乱高下しました。これによりガソリンの店頭価格は市況の悪化となり口銭の圧縮という結果となりました。また、節約志向の中、売上高は微減となり、油外収益等で吸収しきれずに営業利益は計画を下回りました。

石油事業の直需・卸部門におきましては、第2四半期に引き続き、口銭の確保と配送の効率化に注力した結果、利益率が向上しました。これにより売上高は前年実績を下回ったものの、営業利益は前年実績を上回りました。今後も営業利益計画の達成のため、口銭の確保、販売管理費の削減に努めて参ります。

これらの結果、石油事業におきましては、売上高38億23百万円(前年同四半期比8.7%減)、営業利益24百万円(前年同四半期比74.8%減)となりました。

専門店事業であるサイクルショップ「コギー」におきましては、自転車業界の市場動向が厳しさを増す中、第3四半期より施策を一部変更しました。在庫削減と新規顧客獲得を目的とした割引販売及び買上点数アップを目的とした商品陳列、また、作業収益の確保に努めたことにより、売上高・販売台数共に前年実績を上回りました。今後は接客・商品知識・作業技術についてのスタッフ教育に重点を置き、引き続き在庫削減を進め、「コギー」各店舗での新たなコンセプト及びマーチャンダイジングの確立に取り組んで参ります。

これらの結果、専門店事業におきましては、売上高4億40百万円(前年同四半期比8.5%増)、営業損失1百万円(前年同四半期、営業利益0.9百万円)となりました。

不動産事業におきましては、第1四半期より継続しております空室のテナント誘致活動により複数フロアの賃貸契約を結ぶことができたため、売上高39百万円(前年同四半期比70.2%減)、営業損失5百万円(前年同四半期、営業利益81百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、29億36百万円(前事業年度末比 96百万円減)、純資産は8億36百万円(前事業年度末比 1億77百万円減)となりました。

資産のうち流動資産は10億30百万円(前事業年度末比 84百万円減)、固定資産は19億6百万円(前事業年度末比 12百万円減)となりました。これらの増減の主なものは、現金及び預金の47百万円の増加、受取手形及び売掛金の51百万円の減少、商品の40百万円の減少、貸倒引当金の53百万円の増加、建物の30百万円の増加、差入保証金の47百万円の減少によるものであります。

負債につきましては21億円(前事業年度末比 81百万円増)となりました。流動負債は12億20百万円(前事業年度末比 1億41百万円増)、固定負債は8億79百万円(前事業年度末比 60百万円減)となりました。これらの増減の主なものは、買掛金の49百万円の減少、短期借入金の1億85百万円の増加、長期借入金の77百万円の減少、長期預り保証金の18百万円の増加によるものであります。

純資産につきましては、四半期純損失を計上したことにより、8億36百万円(前事業年度末比 1億77百万円減)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の業績予想につきましては、平成25年11月13日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当第3四半期累計期間において175,756千円の重要な四半期純損失を計上しております。また、営業キャッシュ・フローは第63期より継続してマイナスとなっております。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、このような事象又は状況を解消し又は改善すべく、以下の経営改善策を実施することで、安定した収益基盤の確立と固定費の削減により、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。不動産事業については、前事業年度に有力テナントが撤退したことにより大きな空室が生じましたが、各不動産関連会社の協力のもとリーシング活動に取り組んでおり、入居率を回復させつつあります。また、石油事業については、小豆沢油槽所の閉鎖及び不採算取引の縮小・取引形態の見直しにより、利益率の向上を図ります。本社管理部門については、一層の固定費削減に努めております。

4. 四半期財務諸表  
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	258,944	306,818
受取手形及び売掛金	548,313	497,179
商品	278,849	238,207
その他	37,307	50,084
貸倒引当金	△8,658	△61,694
流動資産合計	1,114,757	1,030,595
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	277,619	307,706
土地	1,278,551	1,278,551
その他(純額)	56,167	58,073
有形固定資産合計	1,612,338	1,644,330
無形固定資産		
	1,004	1,264
投資その他の資産		
差入保証金	280,513	233,184
その他	73,057	77,689
貸倒引当金	△48,407	△50,161
投資その他の資産合計	305,162	260,711
固定資産合計	1,918,506	1,906,307
資産合計	3,033,263	2,936,903
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	393,498	344,170
短期借入金	433,818	618,870
1年内返済予定の長期借入金	100,913	105,879
未払法人税等	9,689	6,052
店舗閉鎖損失引当金	—	6,150
その他	141,165	139,688
流動負債合計	1,079,085	1,220,811
固定負債		
長期借入金	524,172	446,346
長期預り保証金	76,644	95,374
再評価に係る繰延税金負債	294,660	299,922
退職給付引当金	20,235	20,235
その他	24,721	17,934
固定負債合計	940,434	879,814
負債合計	2,019,519	2,100,625



(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金	568,321	568,321
利益剰余金	△42,026	△217,782
自己株式	△48,989	△45,437
株主資本合計	567,305	395,101
評価・換算差額等		
土地再評価差額金	446,438	441,176
評価・換算差額等合計	446,438	441,176
純資産合計	1,013,743	836,277
負債純資産合計	3,033,263	2,936,903

(2) 四半期損益計算書  
第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	4,723,004	4,302,605
売上原価	3,862,344	3,608,012
売上総利益	860,659	694,592
販売費及び一般管理費	818,069	798,261
営業利益又は営業損失(△)	42,590	△103,668
営業外収益		
受取利息	1,534	1,411
受取配当金	644	633
仕入割引	1,159	745
神奈川県臨時特例企業税還付金	—	7,223
その他	603	5,445
営業外収益合計	3,941	15,459
営業外費用		
支払利息	15,619	13,523
減価償却費	—	3,777
その他	7,588	3,185
営業外費用合計	23,207	20,486
経常利益又は経常損失(△)	23,323	△108,695
特別利益		
固定資産売却益	—	1,107
店舗閉鎖損失引当金戻入額	3,083	—
資産除去債務戻入益	11,398	—
特別利益合計	14,481	1,107
特別損失		
訴訟関連費用	16,142	365
貸倒引当金繰入額	—	55,550
その他	4,281	6,444
特別損失合計	20,424	62,360
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	17,381	△169,949
法人税、住民税及び事業税	7,052	5,806
法人税等合計	7,052	5,806
四半期純利益又は四半期純損失(△)	10,328	△175,756

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	石油事業	専門店事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,185,490	405,868	131,645	4,723,004	—	4,723,004
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,185,490	405,868	131,645	4,723,004	—	4,723,004
セグメント利益	98,267	977	81,971	181,215	△138,625	42,590

(注)1 セグメント利益の調整額△138,625千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△138,625千円であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	石油事業	専門店事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,823,066	440,250	39,287	4,302,605	—	4,302,605
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,823,066	440,250	39,287	4,302,605	—	4,302,605
セグメント利益 又は損失(△)	24,797	△1,369	△5,491	17,936	△121,605	△103,668

(注)1 セグメント利益の調整額△121,605千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△121,605千円であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。